

鎌倉市下水道事業経営戦略 令和3年度（2021年度）進捗報告書 審議会委員意見

	該当箇所	委員意見
1	「3 取組内容（2）投資計画に基づく進捗状況⑤体制・民間活用・技術力」について	報告書に書く場合、結果として同じことを書くにしてもなぜそういうことをするのか、様々な仕事がある中で、職員が本来業務に集中できるように、複数の委託業務を発注することにしたといった経緯がわかるような報告書にしてほしい。
2	「3 取組内容（3）財政計画に基づく進捗状況⑤資産活用」について	汚泥の燃料化について、受入先が見つからない状況ということだが、SDGsの話題もあるし、社会が脱炭素への方向に向かっている。 下水汚泥を炭化して炭素貯留として利用することやバイオマスエネルギーとして今までも使われた実績から、探せば受入先が見つかると思われる。
3	「5 評価」について	<p>「下水道事業の経営状況は健全であると判断できる」とあるが、繰入金の部分では「繰入金は基準外繰入をしている」という記載もある。企業債残高の減少や下水道使用料が増加することで、経営環境は好転しているかもしれないが、「経営状況が健全である」と言い切って良いのか疑問である。</p> <p>鎌倉市の財政の優れた点は、極力起債をせず、一般会計、税金の中でバランスの取れた事業がされている。そして不交付団体ということもあり、国からの借財も少ない。鎌倉市というのは、市民の税金の中で自立している。財政的に自立をしているので財政が健全であると評価ができると思う。</p> <p>下水道会計として完全に健全と言い切れるかということ、1年間では改善がみられるが、あるべき姿にぴったり合っているのかということ、違いを感じるところがある。</p>
4	全体について	<p>下水道事業の外部委託というのは、民営化を進めていることだと思うが、日本では、民営化というものはあまり成果が出ていないと聞いている。原因の一つとして、マンパワーに対する賃金などの評価の仕方にあると思う。 戦略的な投資計画をするときに、人件費・労務費の算出については、適切な評価を行う必要があると思う。</p> <p>いろいろな努力をしてもらっているが、目標と結果がどうかを含め、今後も分かり易く工夫しながら進捗報告を作成してもらいたい。</p>